

令和8年度 第2回富士市立高等学校在り方審議会次第

日 時： 令和8年9月2日(水) 15:00～

会 場: 富士市役所 6 階 第 1・2 会議室

1 開 会

2 議 事

(1)本日の審議内容／前回審議会の振り返り〔第1章〕

(2)市民アンケート・こども意見聴取 結果分析〔第2章〕

(3)課題整理(事務局提案)〔第3章〕

「市立高校の魅力化に向けた5つの重点課題」

(4)質疑と審議〔第4章〕

3 総括 その他(事務連絡)

4 閉 会

第2回 市立高等学校在り方審議会

市庁舎6階 第1・2会議室

堀井啓幸
会長

事務局

教育次長

教育総務課長

調整主幹

主 幹

遠 藤
指導主事

齋 藤
指導主事

杉山 禎
委員

佐野 文子
委員

野田 純生
委員

鈴木 広隆
委員

鈴木 伸彦
委員

工藤 千麻琴
委員

堤 幸士
委員

工藤 大輔
委員

オブザーバー

榎 俊英
市立高校事務長

オブザーバー

櫻井 祥行
市立高校校長

オブザーバー

河内 慶太
県教育委員会
学校づくり推進室長

傍聴席

傍聴席

傍聴席

傍聴席

傍聴席

傍聴席

傍聴席

傍聴席

傍聴席

傍聴席

傍聴席

傍聴席

傍聴席

傍聴席

傍聴席



第2回 富士市立高等学校在り方審議会

令和8年 9月2日(水)

市庁舎6階 第1・2会議室

第2回 富士市立高等学校在り方審議会 次第

〔第1章〕 本日の審議内容／前回審議会の振り返り

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

〔第3章〕 課題整理(事務局提案)

「市立高校の魅力化に向けた5つの重点課題」

〔第4章〕 質疑と審議

〔第5章〕 総括 その他(事務連絡等)

〔第1章〕

本日の審議内容／前回審議会の振り返り

〔第1章〕 本日の審議内容

◆ 本日の審議主題

市民アンケート・こども意見聴取の結果を踏まえた
富士市立高校のこれからの役割と魅力化の方向性

～ 今後の具体策の検討に向けて

目指す学校像の‘**核となる考え方**’を整理する ～

〔第1章〕 本日の審議内容

◆ 本日の審議内容

- 1 本市及び市立高校の現状と課題について共有する
- 2 市民・中学生アンケート結果の共有及び
事務局が整理した「5つの重点課題」について確認する
- 3 審議
 - (1) 事務局が示す「5つの重点課題」の妥当性
 - (2) 委員の専門的知見から見た追加・補足すべき重点課題
 - (3) 重点課題の焦点化と改善案の検討(事務局「2案」との整合性)

◆ 本日のゴール ▼

目指す学校像の **‘核となる考え方’** を整理する

〔第1章〕 前回審議会の振り返り

◆前回審議会で共有された前提(振り返り)

※前回審議会資料をご確認ください。(下記に該当のスライド番号を付記します)

- ・審議会設置の背景 …… 前回資料〔第1章〕 6、11、12、21、26
- ・本市の現状整理 …… 前回資料〔第2章〕 42、43、44～81
- ・本審議会への諮問 …… 前回資料〔第3章〕 83～85
- ・市立高校2つの方向性(事務局案) …… 前回資料〔第4章〕 89～93
- ・質疑と審議 …… 前回資料〔第5章〕 96

〔第1章〕 前回審議会の振り返り

回	時期	内容(予定)
第1回	7月13日(月)	(1)本審議会の趣旨 (2)本市の教育環境と市立高校 (3)諮問(市立高校の方向性、アンケート等実施報告) (4)委員からの意見等の集約
第2回	9月2日(水)	(1)市民アンケート・こどもの意見聴取(結果報告) (2)委員知見と「重点課題」についての検討 (3)「重点課題」の焦点化と改善案の検討
第3回	11月下旬	(1)事務局から方向性(素案)の提示 (2)具体的方策についての検討、答申に向けた審議
第4回	2月下旬	(1)素案についての検討(1回目) (2)答申に向けた審議
第5回	令和9年度 5月中旬	(1)素案についての検討(2回目) (2)答申に向けた審議
第6回	7月中旬	(1)原案として最終確認、完成 (2)答申についての最終確認

〔第1章〕 前回審議会の振り返り

◆『審議会後のご意見書』に寄せられたご意見(※別冊参照)

- (1) 審議会の進め方について
- (2) 議論の在り方と方向性について
- (3) 今後の市立高校に期待することについて
- (4) 事務局の説明へのご意見
- (5) 今後の検討に必要な視点について
- (6) 関連するデータ等の情報提供について
- (7) その他のご意見

〔第2章〕

市民アンケート・こども意見聴取結果分析

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

(1) 回答者の属性と回答一覧

市民アンケート (市立高校と直接関わりない人が中心) 512人		こども意見聴取:市内中3・中2生 (実際に高校進学を控える当事者) 2,539人	
市立高校との関わりなし	73.4%	進学希望	94.8%
中学生・高校生年代の子なし	77.1%	市立高校にきたことはない	73.0%
市立校の魅力が「あまり(ほとんど)伝わっていない」と回答	計60.5%	進学先として「興味がある」 // 「少しある」	44.0%
上記から、本アンケートによる市民の意見は、「市立高校に期待する役割」や「市税を投入するうえでの公共的効果」への意見として理解する。		中学生の回答は、実際の高校選択における判断基準や不安を直接示している傾向が見受けられる。	

富士市の高校教育と富士市立高校に関する市民アンケート結果 (回答数:512人)

市民アンケート：富士市立高等学校の在り方審議会 資料

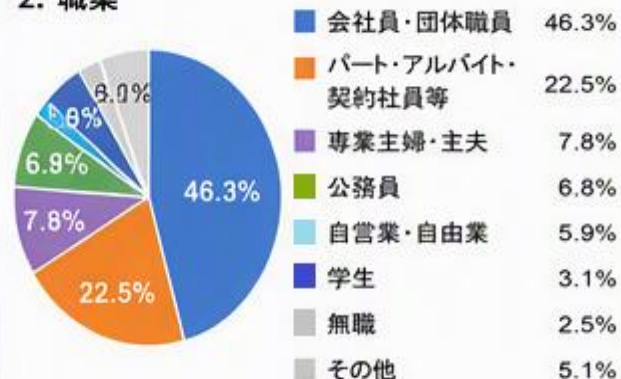
※複数選択可の設問は「回答数：512人」に対する割合
上位3つ選択の設問は「延べ回答数：1,536件」に対する割合

【基本属性】

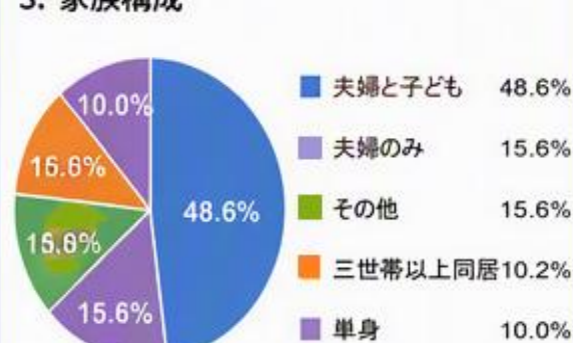
1. 居住地区(上位10地区)



2. 職業



3. 家族構成



4. 中学生・高校生年代の子どもの有無



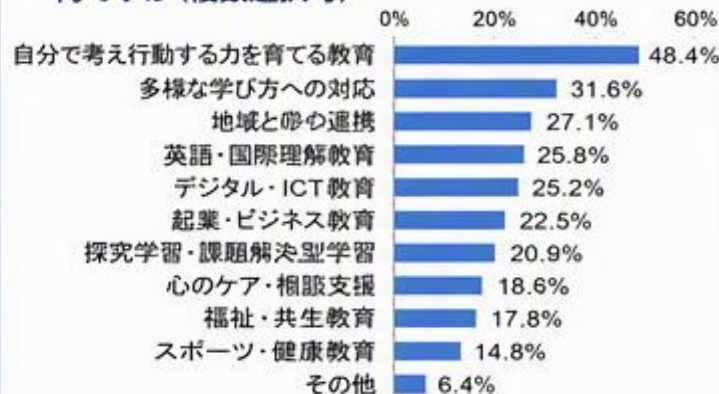
5. 富士市立高校との関わり



6. 市立高校は富士市にとってどのような役割を果たすべきか(複数選択可)



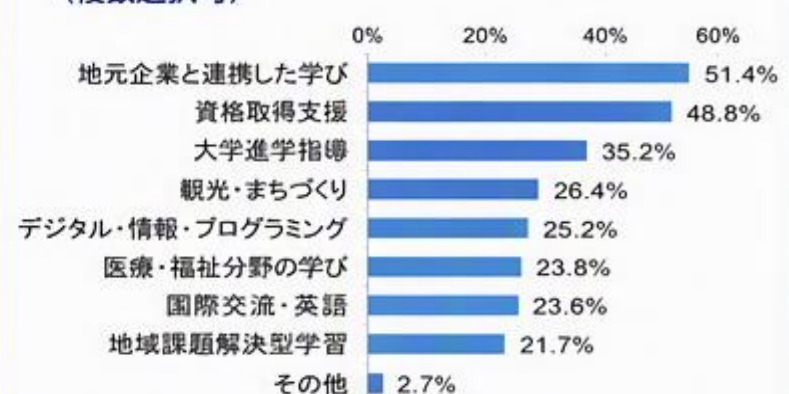
7. 現在の富士市の教育に特に不足しているものは何ですか(複数選択可)



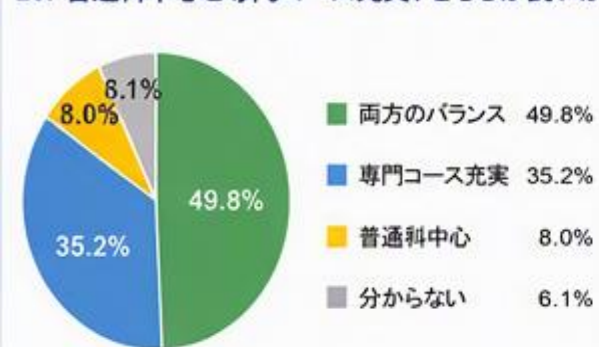
8. 子どもたちに特に身につけてほしい資質・能力(上位3つ選択)



9. 市立高校で今後強化すると良い教育内容は何か(複数選択可)



10. 普通科中心と専門コース充実、どちらが良いか



11. 新しい学科・コースで望ましい分野(複数選択可)



12. 地域にとって必要とされる学校であり続けるために重要なこと(複数選択可)



13. 生徒に地域でどのような活躍を期待するか(複数選択可)



14. 高校を選ぶ際、魅力に大きく関わる条件(上位3つ選択)



15. 特に充実してほしい支援は何か(複数選択可)



16. 高校の魅力は十分に市民に伝わっているか



17. 学校の魅力を伝えるために効果的な方法は何か(複数選択可)



【まとめ】市民の主な意見・傾向

- 地元企業との連携や地域貢献を重視する声が多い。
- 教育の課題として「自分で考え行動する力」や「多様な学び方への対応」が上位。
- 身につけてほしい力では「コミュニケーション力」「主体性」「協働する力」が突出。
- 新しい学科・コースでは「情報・デジタル」「福祉・看護・保育系」が人気。
- 魅力の発信方法は「SNS」「オープンスクール」「地域イベントでの発信」が効果的。

富士市立高等学校に関するアンケート調査結果（中学2・3年生対象）

調査対象：市内中学2・3年生 2,539人（中学2年生 1,139人／中学3年生 1,400人）＜複数選択は回答率（％）を表示＞

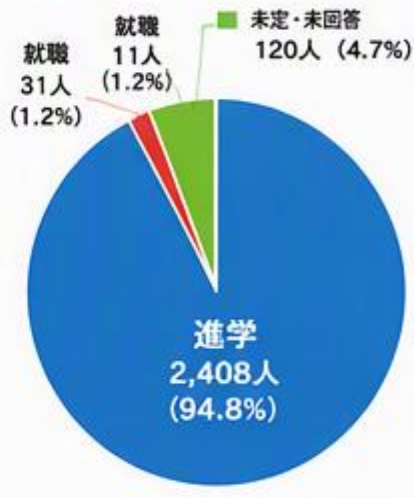
質問1 学年を教えてください



中学校区を教えてください



質問2 今の希望進路



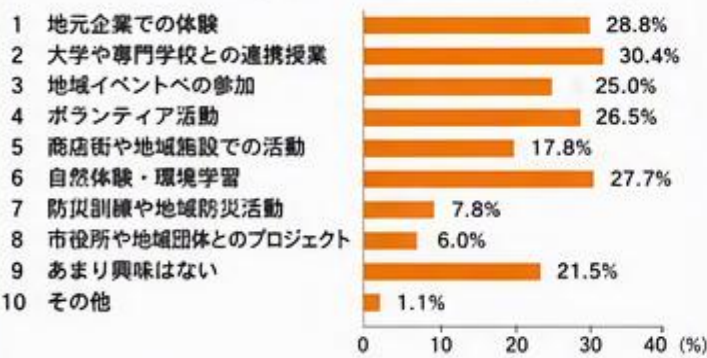
質問3 高校を選ぶときあなたが大切にすることは何ですか。（3つまで）



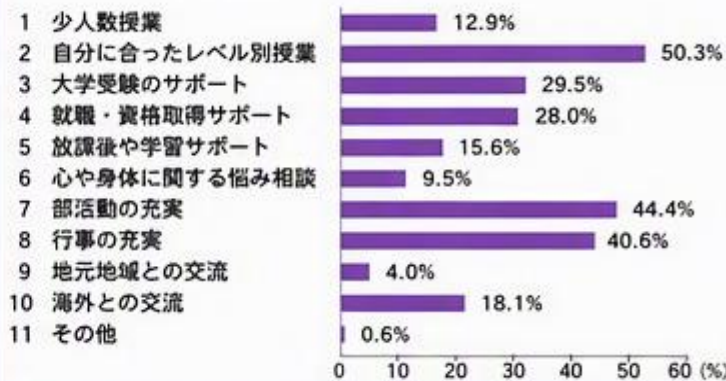
質問4 高校でやってみたい学びは何ですか。（3つまで）



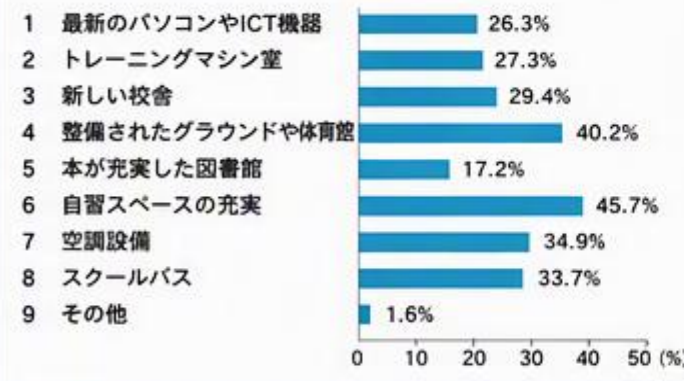
質問5 学校の外に出て行う学びがあるとしたら、どんな活動に参加してみたいですか。（3つまで）



質問6 高校にあったら魅力的だと思う学習環境は何ですか。（3つまで）



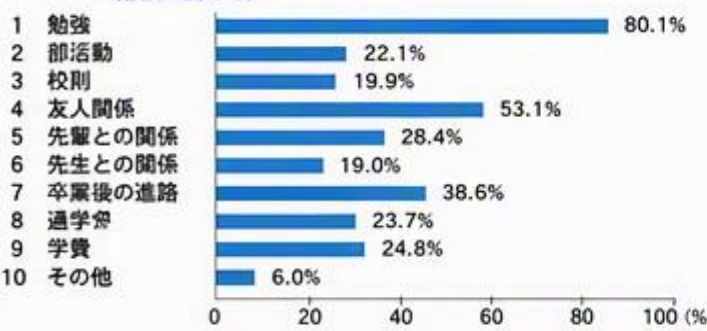
質問7 高校にあったら魅力的だと思う施設・設備は何ですか。（3つまで）



質問8 どんな雰囲気の学校に通いたと思いますか。



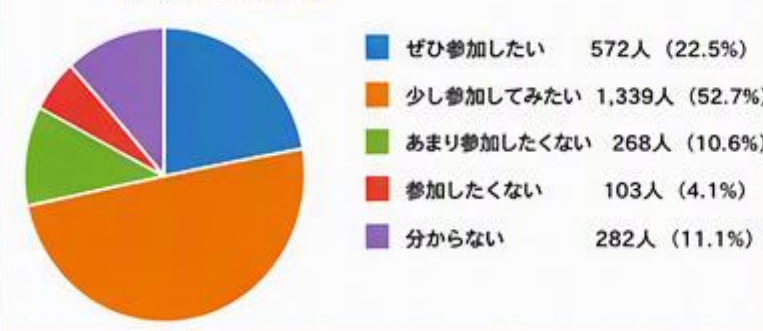
質問9 高校生活で特に不安に感じることは何ですか。（複数選択可）



質問10 卒業後の進路について、どんなサポートをしてほしいですか。（3つまで）



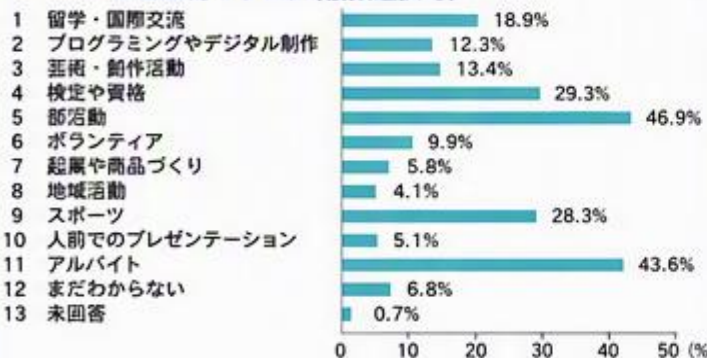
質問11 高校で、地域とかかわる活動があったら、参加したいですか。



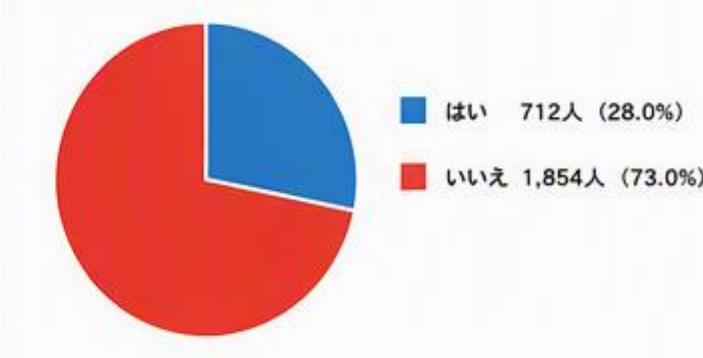
質問12 以下に参加してみたい（参加してもよい）と思う地域活動はありますか。（3つまで）



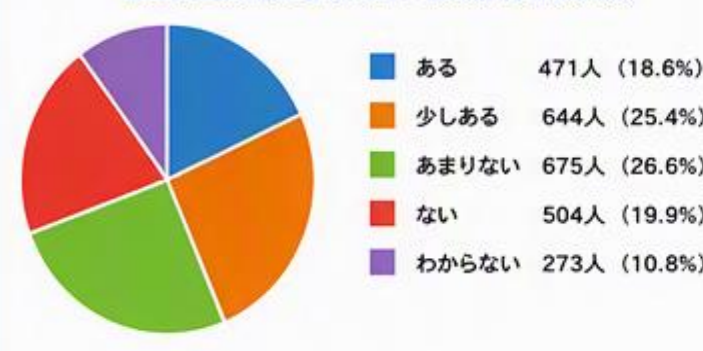
質問13 高校生になったら、学校の内外で挑戦してみたいことは何ですか。（複数選択可）



質問14 あなたは富士市立高校に来たことはありますか。



質問15 今のあなたは、進学先の選択肢として、富士市立高校にどれくらい興味がありますか。



【調査概要】

調査時期：令和8年7月
調査対象：富士市内中学校2・3年生
有効回答数：2,539人
※構成比（％）は小数点第2位を四捨五入して
いるため、合計が100%にならない場合があります。

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

視点① 地域社会や地元企業とのつながり

富士市市民アンケート（無作為抽出）と中学生意見聴取の結果を突き合わせた分析

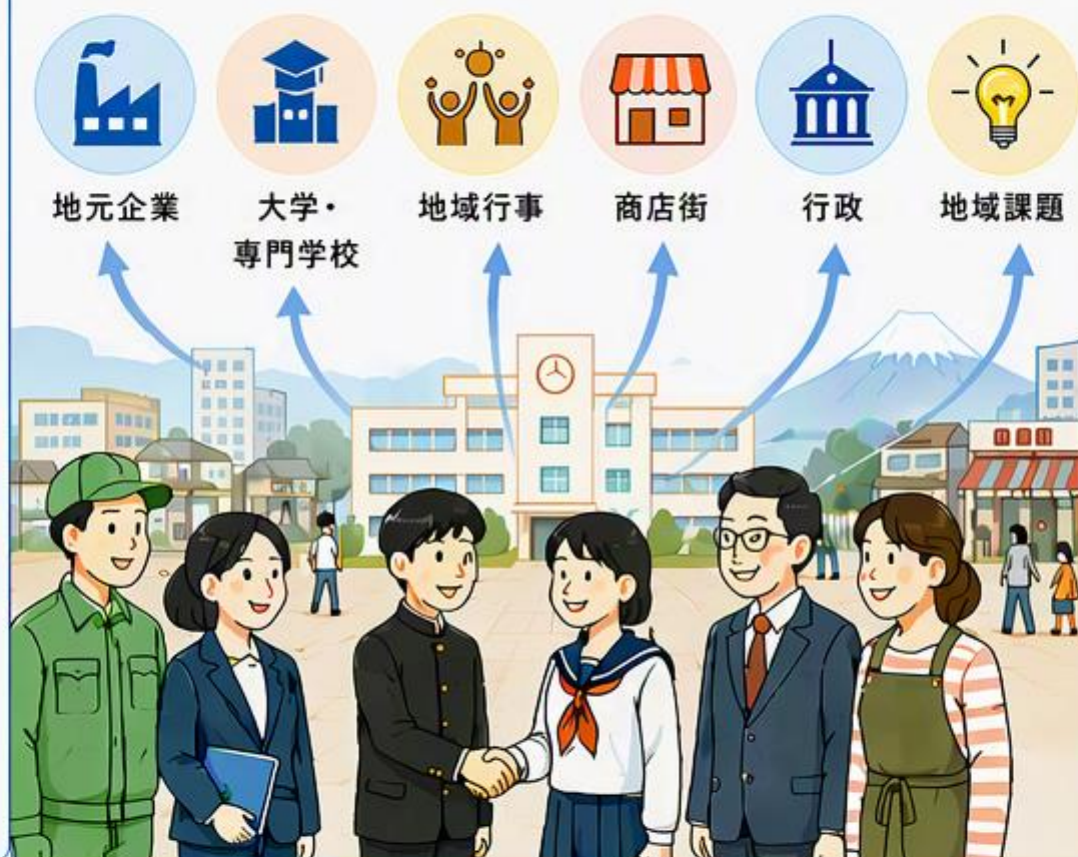
市民アンケートの結果（無作為抽出）

市民では、地元企業や地域産業との連携が最も強く支持されています。

- ① 市立高校の役割として「地元企業や地域産業を支え人材育成する高校」 **64.8%**
- ② 強化すべき教育として「地元企業と連携した学び」 **51.4%**
- ③ 地域に必要な取組として「地元企業との連携」 **62.3%**
- ④ 生徒に期待する活動として「地元企業との連携」 **51.0%**

共通する考え方

両者とも、学校を教室内だけで完結する場ではなく、さまざまな主体とつながる学校にすることを望んでいます。



中学生意見聴取の結果（中学2・3年生）

中学生でも、次のような地域・職業接続への関心が見られます。

- 仕事や職業を知る機会 **36.3%**
- 地域イベントの企画・運営 **32.3%**
- 大学・専門学校との連携授業 **30.4%**
- 地元企業での体験 **28.8%**
- 地域イベントへの参加 **25.0%**
- 観光・まちづくり **32.2%**
- 地元企業との商品開発 **12.6%**

考え方の違い（視点の違い）

市民の視点（社会・自治体側の視点が強い）



「地域産業を支える人材」

- ・地域の産業や企業を支える人材育成
- ・地域経済の活性化や持続可能なまちづくり
- ・地域全体の発展につながる人材を育てる



中学生の視点（自分の進路選択に役立つ視点共強い）

「仕事を知る」「体験する」「大学と学ぶ」

- ・自分の興味や将来を見つけたい
- ・さまざまな体験や学びを通して視野を広げたい
- ・進学や就職につながる学びを得たい



〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

視点② 資格・就職・進学などの進路に関するニーズ

市民も中学生も、将来につながる実用的な学びを重視しています。

市民アンケートの結果（無作為抽出）

	就職・資格取得に強い高校	52.9%
	強化してほしい教育内容 「資格取得支援」	48.8%
	「大学進学指導」	35.2%
	「デジタル・情報・プログラミング」	25.2%
	「医療・福祉分野の学び」	23.8%

子ども意見聴取（中学2・3年生）

	大学受験対策	57.2%
	大学に向けた勉強	43.9%
	資格取得につながる学び	36.6%
	仕事や職業を知る機会	36.3%
	卒業後の支援として 資格取得支援	35.8%
	パソコン・情報・プログラミング	16.5%

視点③ 個性を重視し、多様な進路に対応できる学校

市民も中学生も、一人ひとりの違いを大切にする学校を求めています。

市民アンケートの結果（無作為抽出）

	自分で考え行動する力を 育てる教育	48.4%
	多様な個性や進路に 対応する高校	43.9%
	市の教育に不足している 「多様な学び方への対応」	31.6%
	心のケア・相談支援	18.6%
	不登校経験者や外国籍児童 などにも開かれた高校	18.6%

子ども意見聴取（中学2・3年生）

	自分に合ったレベル別授業	50.3%
	自習スペースの充実	45.7%
	面接や小論文指導	26.2%
	個別相談	26.3%
	少人数授業	12.9%

示唆する内容



市民・中学生ともに、**資格取得や就職・進学を支える教育への強い期待**が共通しています。
実社会につながる学びや支援の充実が、
将来への安心や意欲につながります。



示唆する内容



市民・中学生ともに、**一人ひとりの個性や多様な進路に対応する教育環境**を求めています。
すべての生徒が自分らしく学び、将来を描ける
学校づくりが重要です。

2つのテーマを実現するために

資格・就職・進学を
支える実用的な学びの充実



多様な進路に対応できる
教育課程の整備



個性を伸ばし、
主体性を育む教育



心のケアや相談支援
体制の強化



すべての生徒に開かれた
包摂的な学校づくり



〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

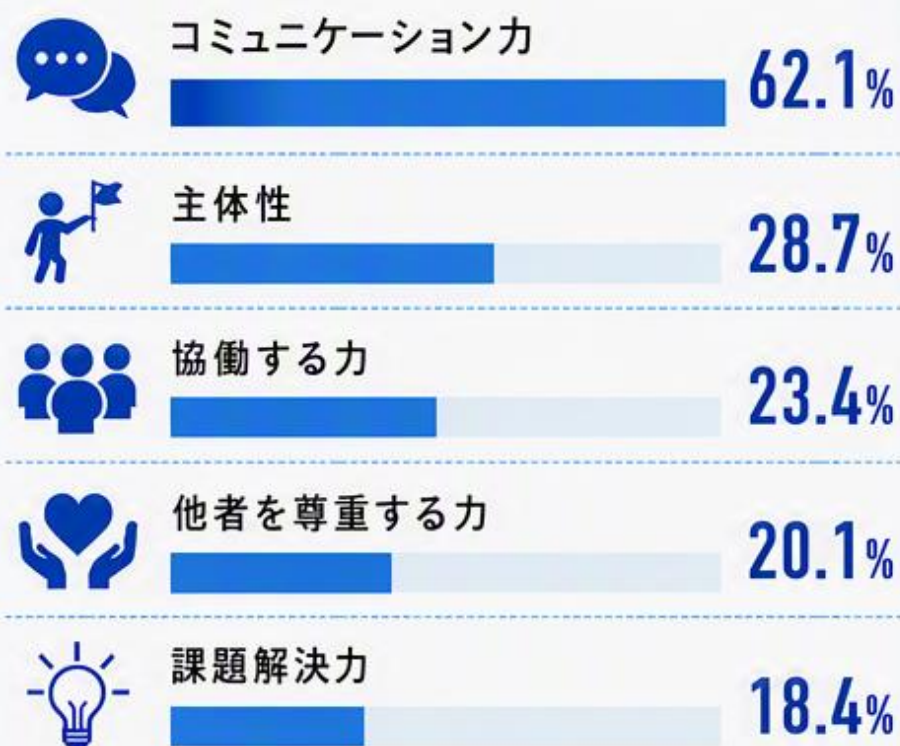
視点④

身につけてほしい資質能力と学校生活の充実度

富士市市民アンケート（無作為抽出）と中学生意見聴取の結果を突き合わせた分析

市民アンケートの結果（無作為抽出）

市民が子どもに身につけてほしい資質として挙げたものは、



共通する考え方

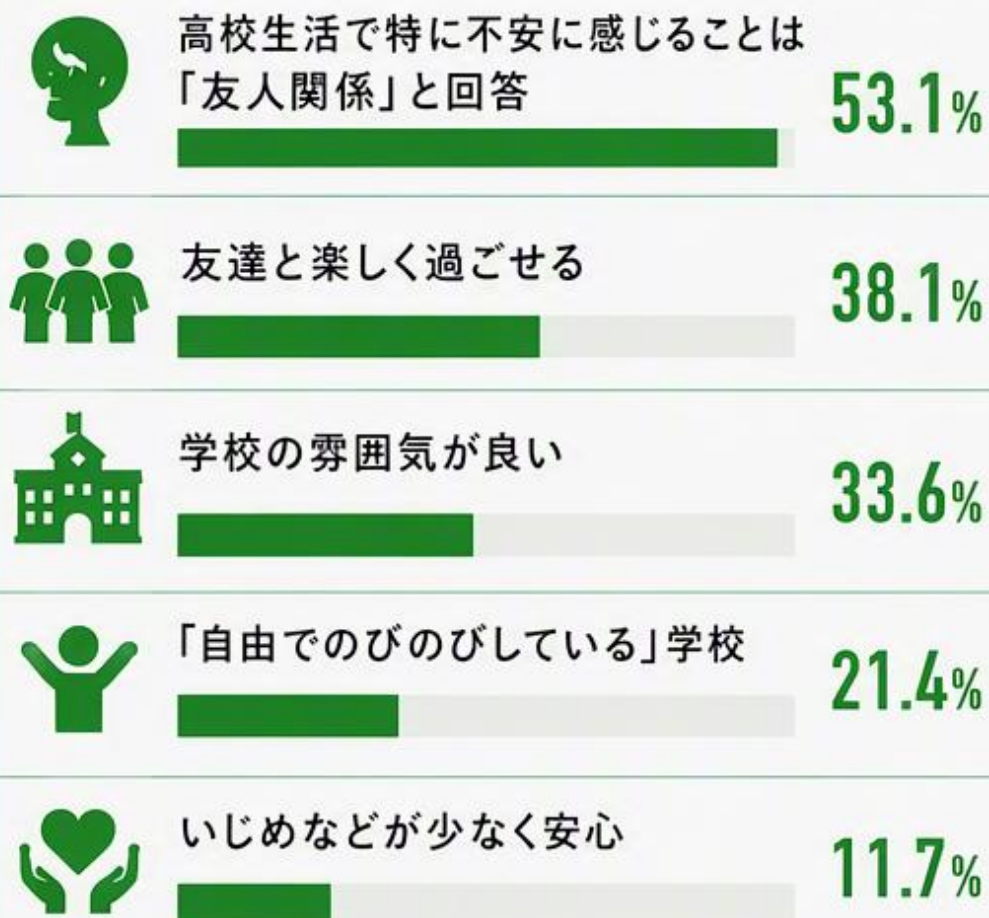
市民は、社会に出てから必要な能力としてコミュニケーション力や主体性を重視し、中学生は、実際の高校生活における友人関係や安心感を重視しています。



表現は異なりますが、両者とも、富士市立高校に対して、学力や資格だけでなく、**人と関わり、自分で考え、行動できる人を育てる学校**を求めています。

中学生意見聴取の結果（中学2・3年生）

中学生の回答でも、



人と関わり、自分で考え、行動できる人を育てることが、富士市立高校に求められる大切な役割です。



〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

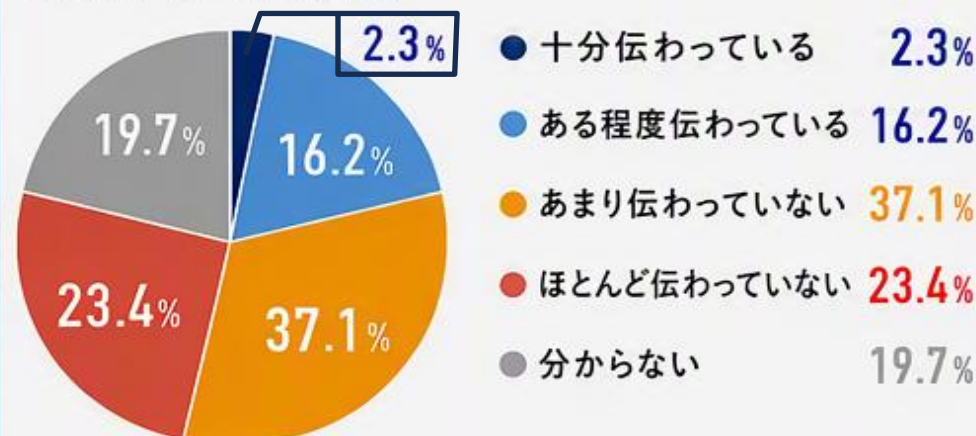
視点⑤

学校の魅力発信と認知度について

富士市市民アンケート(無作為抽出)と中学2・3年生意見聴取の結果を突き合わせた分析

市民アンケートの結果(無作為抽出)

市民では、学校の魅力が十分に伝わっていないという認識が強くあります。



市民が支持する情報発信方法(複数回答)

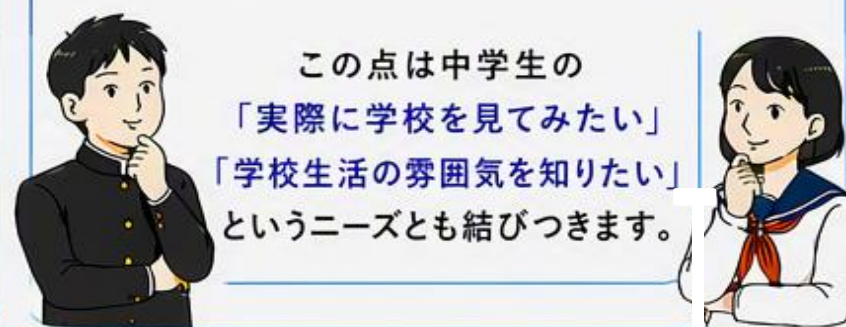


もっと知る機会や、実際に触れる機会が必要と感じています。

共通する課題

市民・中学生の双方に、富士市立高校の以下の情報が十分に伝わっていません。

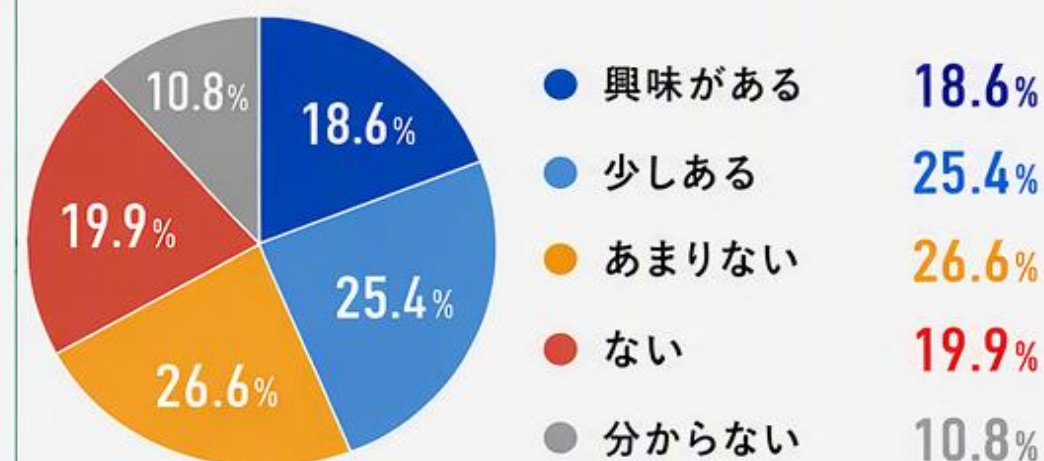
- 学科の特色
- 授業内容
- 進学・就職実績
- 学校生活
- 卒業後の進路
- 他校では経験できない特別な学び・取組



この点は中学生の「実際に学校を見てみたい」「学校生活の雰囲気を知りたい」というニーズとも結びつきます。

中学生意見聴取の結果(中学2・3年生)

富士市立高校への関心



「富士市立高校に訪れたことがある」と回答した中学生は約27%(685人)でした

その内訳は、上位から

- 文化祭・学校行事への参加
- 学校施設を、部活動やクラブ活動の会場として利用
- 学校見学・高校見学・進学検討
- 小学校・中学校の学習や交流活動
- 地域イベント・幼稚園・保育園関連

市内中学生には、学校行事だけでなく、スポーツ・文化・進路検討・地域交流の場としても利用されています。

まとめ



特に市民は「学校の魅力が十分に伝わっていない(分からない)」との認識が目立ちます。一方で、中学生の4人に1人が学校を訪れており、部活動、進路検討、地域交流など、多様な学びの機会が提供されています。課題は、こうした学校の取組について、関係者以外の市民への認知度が低い点です。多世代の人々が学校を訪れ、実際に知る・触れる機会の創出が求められています。

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

(2) 全体の傾向

視点① 地域社会や地元企業とのつながり

- ・市 民・・・地元企業や地域産業との連携を強く支持している

「地元企業や産業を支える:64.8%」「地元企業との連携:62.3%」

- ・中学生・・・‘自身の関心や進路選択に役立つか’の視点で考えている

「仕事や職業を知る機会:36.3%」「地域イベントの企画運営:32.3%」

視点② 資格・就職・進学など進路ニーズ

- ・市 民・・・就職や資格取得に向けた支援強化を期待している

「就職・資格取得に強い高校:52.9%」「資格取得支援強化:48.8%」

- ・中学生・・・大学受験に向けた学習を重視している

「大学受験対策:57.2%」「大学に向けた勉強:43.9%」

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

(2)全体の傾向

視点③ 学習支援と環境の在り方

ともに個性に応じた学びの支援と多様な進路へ対応を求めている

・市 民・・・「自立性を育成する教育:48.4%」「多様な個性や進路対応:43.9%」

「多様な学び方への対応:31.6」

・中学生・・・「習熟度別授業:50.3%」「自習スペースの充実:45.7%」

「面接や小論文指導:26.2%」「個別相談:26.3%」

視点④ 資質能力と学校生活の充実度

・市 民・・・社会に出てから必要な資質能力の習得を強く求める

「コミュニケーション力:62.1%」「主体性:28.7%」「協働力」23.4%」

・中学生・・・実生活の人間関係における心理的安全を重視する

「(不安は)友人関係:53.1%」「友達と楽しく過ごせる:38.1%」ほか

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

(2) 全体の傾向

視点⑤ 学校の魅力発信(広報)

※(とくに市民の声から)市立高校の魅力発信が不足している可能性

・市民・・・「あまり伝わっていない:37.1%」 「ほとんど伝わっていない:23.4%」
「分からない:12.7%」

・中学生・・・「(市高に関心が)ある:18.6%」 「(〃)少しある:25.4%」
「市立高校を訪れたことがない中学生:73.0%」

視点⑥ 優先事項の違い

- ・市民は専門教育(実学系)を支持するが、中学生は大学進学(普通教科)の充実を求める
- ・市民は「地元定着」を求める声が多いが、中学生は「外への選択」を希望する意見もあり

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

(2) 全体の傾向

視点⑦ 各アンケート全体からの見取り

・**中学生の傾向** … 地域活動、企業体験、大学連携、ボランティアに関心はあるが、起業や地域課題、環境・防災への学びは強い動機にはつながらない。

(自分に合う学習、進学、部活動、友人関係を強く意識)

・**市民の傾向** … 地域連携や探究に一定の期待の声。今後を見据えた学問領域(AI・デジタル・起業・英語)、富士市を支える実学領域(製造業・医療・福祉)への期待が大きい。

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

(2) 全体の傾向

視点⑧ 事務局2案への示唆

A案への示唆

「探究」の言葉だけでは主要な志望動機に繋がらない。

「探究」を、生徒の個の学び(関心)や進路に紐づけて具体的な価値となることを伝える必要性あり。

B案への示唆

理念は魅力的だが、中学生の関心度(起業や商品開発6.0%、プログラミング・デジタル制作12.3%)からは、これだけでは志願に繋がりにくい。

理念を進学、資格取得と就職、行事等と同時に整える必要性あり。

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

(2) 全体の傾向

視点⑧－1 その他、中学生の視点から

部活動への参加

- ・「学校内外で挑戦したいこと」 **部活動** 46.9%
- ・「高校に合ったら魅力的な環境」 **部活動の充実** 44.4%

学校行事

- ・「どんな雰囲気のある学校に通いたいのか」 **行事が盛り上がる** 20.4%
- ・「高校に合ったら魅力的な環境」 **行事の充実** 40.6%

アルバイト

- ・「学校内外で挑戦したいこと」 **アルバイト** 43.6%

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

(2) 全体の傾向

視点⑧－2 その他、市民の視点から

新学科、新コースを設置するとした場合、望ましい分野への回答

- ・ 情報・デジタルコース … 45.1%
- ・ 福祉・看護・保育系コース … 41.4%
- ・ 国際・外国語コース … 34.0%
- ・ 地域創造コース … 31.4%

「市立高で今後強化すると良い内容」(質問9)、「市立高校が必要であり続けるために重要なこと」(質問12)、「市立高生徒へ期待すること」(質問13)

⇒ いずれの質問も「地域企業と連携」した学びが第1位(過半数)

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

(3)市民の期待（自由記述の読み取りから） ※別紙参照

富士市立高校に求められる基本的な役割についての質問

市民意見の大きな傾向として、市立高校には、一般的な進学校や部活動の強豪校ではなく「**富士市が設置する意味**」を明確に持つ

高校であることが期待されていることが読み取れた

〈 市民が期待する学校像 〉

地域に根付きながら、地域の外にも挑戦できる人材を育てる存在



「地域密着」と「多様な進路」を両立する高校 と整理した

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

「地域密着」と「多様な進路」を両立する高校 と考える根拠

【自由記述からの見取りと共通理解】

- ・富士市を学びの起点として、全国・世界に挑戦し、将来は富士市に残る(戻る)ことも、外から富士市を支えることもできる人材を育成。
- ・進学実績だけでなく、就職・資格・技術・地域貢献など多様な成果が
学校の価値として捉えられていること。
- ・市立高校には、教育機関としてだけでなく、地域課題の解決拠点・
市民の学びの場としての役割も期待されていること。

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

(3)市民の期待（自由記述の読み取りから）

期待の柱	期待の具体
① 地域貢献人材の育成	富士市の課題を理解し、地域活動・起業・情報発信などを通じて地域に還元する人材
② 地域産業と接続した実学	地元企業・行政・大学等との継続的な連携、課題解決型授業、職場体験、資格取得
③ 富士市を教材にした探究	産業、歴史、文化、自然、防災、福祉、環境などを学び、実際の地域課題の解決に取り組む学び
④ 多様な生徒・進路への対応	大学進学、専門学校、就職、起業、地域活動など、多様な将来像に応える教育

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

(4)市民間で分かれた論点

→ **市立高校としての公共性 × 特色化のバランス** が問われている

・県外生徒の受け入れについて

【市民優先を求める意見】

「市立高校として、富士市の生徒を優先すべき」「地元の子どもが入学しやすい学校にしてほしい」「市税を市外・県外生徒のために使うことへの疑問」・・・等

【県外募集に理解を示す意見】

「全国から生徒を集める特色校を目指してもよい」「外から来た生徒が富士市の魅力発信に貢献する」「多様な生徒との交流が市内生徒への刺激になる」・・・等

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

(4)市民間で分かれた論点

・スポーツ強化の位置付け

【肯定的な意見】

「文武両道やスポーツを通じた人材育成を進めてほしい」「施設を活用し、富士市のスポーツ振興に繋げてほしい」「小中学生や地域クラブとの交流促進を」

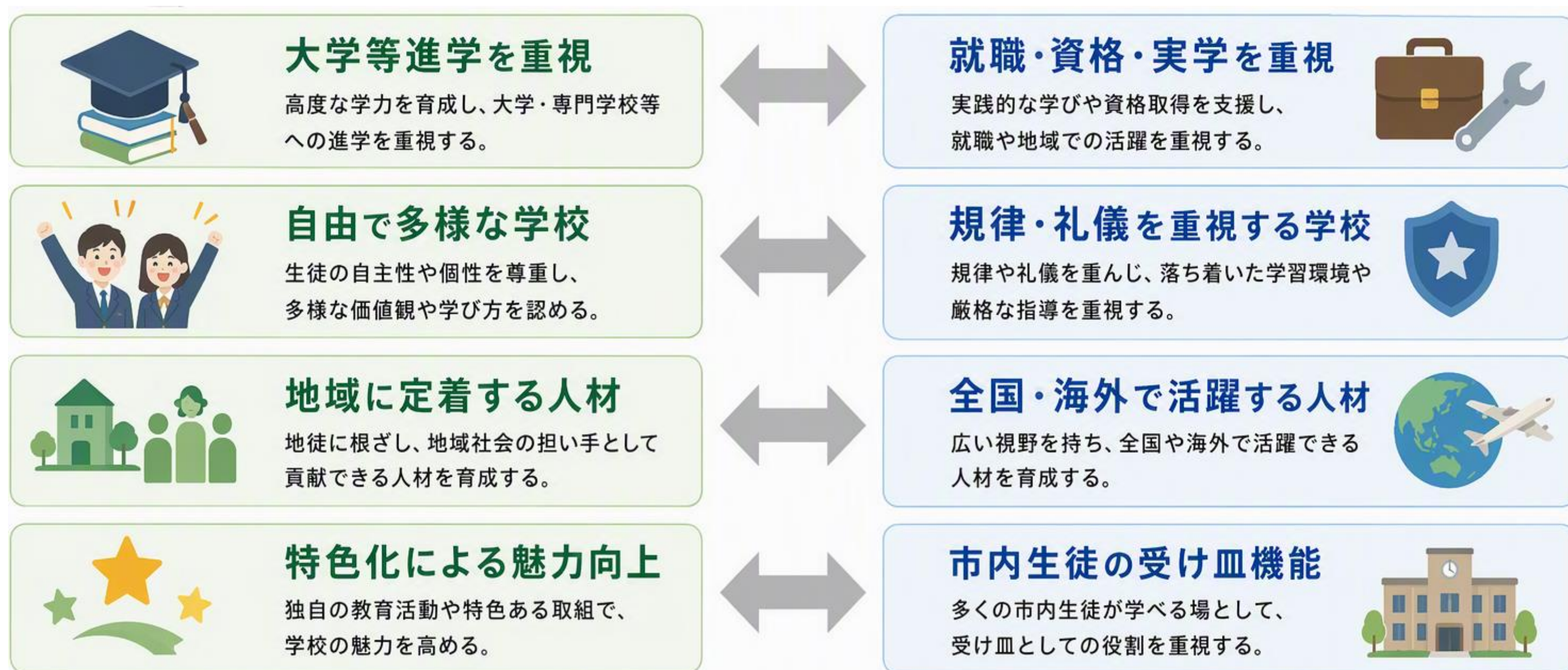
【慎重な／批判的な意見】

「スポーツ探究や強化の意義が分かりにくい」「県外生徒の受け入れに市税を投入していることに疑問がある」「商業、就職、資格、理数教育等を優先すべき」

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

「地域密着」と「多様な進路」を両立する高校

の視点から実現する場合に熟議が必要な要素



〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取 結果分析

(5)示唆すること (方向性を検討する上で考慮したい事)

市民意見が示唆すること

地域とのつながりを重視する声が多い



地域理解・地域貢献・地域課題解決への期待

多様な進路・成果を重視する声が多い



進学・就職・資格・技術・起業・地域活動など多様な価値を評価

市立高校の公共性への期待が高い



教育機関としての役割に加え、市民の学び・交流・防災など公共的役割への期待

特色化と市民優先のバランスが重要



市内生徒を大切にしながら、特色・魅力づくりとの両立を求める声

学校の方向性を検討する上で考慮したい事

1 「市立高校が必要」とする理由の明文化



- 地域貢献人材の育成
- 地域産業との接続
- 多様な生徒への教育機会
- 地域課題の解決
- 市民への教育的・公共的還元



市立高校としての使命を、教育目標だけでなく、具体的な成果指標と併せて示す必要がある。

2 地域連携の取組を広域的・深化的な仕組みへ発展



- 地元企業・行政・大学・地域団体との継続的な連携
- 企業課題を題材にした授業
- 長期インターンシップや資格取得
- 地域課題解決型の探究活動
- 卒業後の就職・定着・Uターンにつながる支援



持続的な連携が、地域と高校の価値を高める

3 市民にとってのメリットを明確にする



- 市内生徒の入学機会や経済的支援
- 通学環境・安全対策の改善
- 施設の市民開放
- 小中学生・地域クラブとの連携
- 防災・福祉・環境等における地域貢献



市民生活の向上と地域の持続的発展に貢献する高校へ

4 市民間における理想の違いを踏まえ、設計のバランスを考慮する



- 市内生徒を大切にしつつ、市外・県外募集の目的を明確化
- スポーツ強化を地域還元・教育目的と結び付ける
- 進学・就職・資格・起業・地域活動など進路を複線化
- 多様性を受け入れながら、安心・規律・学習環境を確保



多様な価値観を尊重しながら、安心して学べる環境を整える

〔第3章〕

課題整理（事務局 提案）

「市立高校の魅力化
に向けた5つの重点課題」

(事務局案) 富士市立高校の魅力化に向けた5つの重点課題

アンケート調査結果（市民512件／中学2・3年生2539人）をもとに分析

市民と中学生のアンケート結果に共通して考えられること



1 地元企業や地域社会とのつながり

市民は地域企業との連携を支援し、中学生は職業接続への関心が高い。



2 資格取得や就職・進学を支える教育

普通教科による基礎学力と専門学科の実学とのバランスを支持。



3 幅広い学力層の受け入れと多様な個への対応、施設や教育資源の市民への還元



4 通学のしやすさや学習への支援（学ぶ環境の充実）

現施設や立地条件等の課題を検証。



5 学校の魅力発信

教育内容と特徴、他校との違い、進路や部活動の実績、高校生活などの発信を求めている。

1

進路に結びつく地域連携型の実学教育

市民・中学生の双方が、将来につながる学びや職業理解を強く求めています。

具体例

- 地元企業での長期的な職業体験
- 企業課題を題材にした探究
- 商品開発・地域ブランドづくり
- 医療・福祉・保育の体験学習
- 製紙・環境・防災・観光など富士市固有のテーマ
- 大学・専門学校との接続授業
- 企業人・卒業生によるキャリア講座
- インターンシップと進路指導の一体化

ポイント

「地域貢献活動」で終わらず、資格、推薦入試、就職、大学進学、職業理解に結びつけることが重要



2

普通教科を土台とした進学支援と専門教育の両立

市民は専門性を、中学生は大学進学と学力適合を重視。多様な進路に対応できる柔軟な構造を。

普通教科 (全員が学ぶ基盤)

選択・特化できる多様なコース

進学型

資格・就職型

情報・デジタル型

地域産業・ビジネス型

スポーツ・健康型

福祉・保育型

など

ポイント

- ・中学生の多くは「自分に合ったレベル別授業(50.3%)」を希望している
- ・高校で希望する学びの上位は「大学受験(43.9%)」「資格取得につながる学び(36.6%)」を重視し、PC・情報・プログラミングやスポーツ系の学びが続く



3

市立高校ならではの特色の確立と公共性

市立高校が「誰のための学校か」という存在意義に関わる重要な論点です。

議論の視点

- 市税を投じることから、市内の子どもを優先すべきかを検証
- 市外・県外から生徒を集める部活動の在り方を検証
- 地元中学生の市立高理解を深めるための取組を検証
- 競技力向上と市民還元の両立のための取組を検証
- 特定の学力層だけでなく、幅広い生徒への支援の方策を検討
- 不登校経験者や支援を必要とする生徒の受け入れの検証

今後、明確にすべきこと

- ✓ 市内生徒と市外生徒の募集方針
- ✓ 部活動整備・特別枠の考え方
- ✓ 市民への施設還元
- ✓ 生徒の多様性への対応
- ✓ 学力層・進路の幅
- ✓ 市税投入に対する成果指標

4

通学しやすさと施設環境の充実

通学のしやすさは市民で38.9%、中学生で21.4%が重視。施設・設備の充実も重要です。

中学生が魅力的だと思う施設・設備(上位)

自習スペース	45.7%
整備されたグラウンド・体育館	40.2%
空調設備	34.9%
スクールバス	33.7%
新しい校舎	29.4%
ICT 機器	26.3%

市民の自由記述で多い意見

- 駅から遠い
- 岳南電車の費用や本数
- 自転車通学の危険
- スクールバスの不足
- 移転の検討

ポイント

学校改善と同時に、交通アクセスを学校魅力化の重要課題として扱う必要があります。



5

「富士市立高校で何ができるか」の可視化

市民・中学生ともに、学校情報の不足が大きな課題です。

毎年度、分かりやすく公式すべき情報

- 各学科・コースの授業内容
- 生徒が取り組んだ探究テーマ
- 企業・大学・行政との連携実績
- 資格取得者数
- 進学先・就職先
- 地元企業への就職状況
- 卒業生の活躍
- 部活動の実績
- 生徒の学校生活
- 生徒・保護者の満足度
- いじめ・不登校・相談
- 通学手段、スクールバスの利用状況

ポイント

「探究をしている」という抽象的な発信ではなく、何を学び、何ができるようになり、卒業後にどうつながったかを示すことが必要



〔第4章〕 質疑と審議

- ◆ 会長所感
- ◆ アンケートの結果分析／課題整理と審議の進め方
- ◆ 事務局への質疑・確認等
- ◆ 審議の開始
 - (1) 事務局が示す「5つの重点課題」の妥当性
 - (2) 委員の専門的知見から見た追加・補足すべき重点課題
 - (3) 重点課題の焦点化と改善案の検討(事務局「2案」との整合性)

〔第5章〕 総括、その他

- ◆ 次回の審議会について
令和8年11月下旬()予定
- ◆ 今後の事務局と審議会との情報共有について
- ◆ その他(事務連絡等)